



## Quick Connect ワークフロー

表 1: 機能の履歴

機能名	リリース情報	説明
Cisco IOS XE SD-WAN デバイスをオンボードするための Quick Connect ワークフロー	Cisco IOS XE リリース 17.6.1a Cisco vManage リリース 20.6.1	<p>この機能は、サポートされている WAN Edge デバイスを Cisco SD-WAN オーバーレイ ネットワークにオンボードするための Cisco vManage におけるガイド付きの代替手法を提供します。Quick Connect ワークフローの一部として、基本的なデイゼロ構成プロファイルが作成されます。これは、デバイスモデルやデバイス ファミリに関係なく、すべての Cisco IOS XE SD-WAN デバイ스에適用されます。このワークフローにより、WAN トランスポートにエッジデバイスが追加され、データプレーンとコントロールプレーンの接続が確立されます。</p> <p>この機能は、Cisco IOS XE SD-WAN デバイスでのみサポートされています。</p>

- [Quick Connect ワークフローを使用するための前提条件 \(2 ページ\)](#)
- [Quick Connect ワークフローの制約事項 \(2 ページ\)](#)
- [Quick Connect について \(2 ページ\)](#)
- [Quick Connect ワークフローへのアクセス \(5 ページ\)](#)

## Quick Connect ワークフローを使用するための前提条件

- 組織名を設定する必要があります。
- Cisco vBond Orchestrator および Cisco vSmart コントローラの証明書認証を設定する必要があります。
- コントローラ（Cisco vManage、Cisco vBond Orchestrator、および Cisco vSmart コントローラ）をインストールして設定する必要があります。



(注) これらのコントローラを設定していない場合は、Quick Connect ワークフローから Cisco vManage の **[Administration]** > **[Settings]** ウィンドウに移動し、前提条件の設定を完了します。

## Quick Connect ワークフローの制約事項

- Quick Connect ワークフローは、WAN 設定（VPN0）の指定に限定されています。SD-WAN オーバーレイの起動プロセスを完了できるようにするには、サービス側 VPN テンプレートも構成する必要があります。  
ネットワークインターフェイスの設定の詳細については、「[Configure Network Interfaces](#)」を参照してください。
- Quick Connect ワークフローは、Cisco IOS XE SD-WAN デバイスでのみサポートされています。
- Quick Connect ワークフローでは、一度に最大 25 のデバイスのデイゼロ構成の作成がサポートされます。26 以上のデバイスがある場合は、必要に応じてワークフローを複数回実行します。
- どの時点でも、同時に複数のワークフローを進行させることはできません。

## Quick Connect について

### Quick Connect ワークフローの概要

Cisco vManage の Quick Connect ワークフローでは、デバイスのファミリーおよびモデルに関係なく、すべての Cisco IOS XE SD-WAN デバイスに適用できる基本的なデイゼロ構成プロファイルが作成されます。このワークフローにより、WAN でコントロールプレーンとデータプレーンへのアクセスが確立されます。

Quick Connect ワークフローの動作は、デバイスを Cisco vManage にアップロードする方法によって異なります。次のいずれかの方法で、Quick Connect ワークフローの一部として、または個別に、デバイスをアップロードできます。

- 自動同期オプションを使用：スマートアカウントが Cisco vManage と同期されます。このオプションでは、Cisco vManage が Cisco Plug n Play (PnP) ポータルに接続できる必要があります。
- 手動アップロード手法を使用：デバイスの認定シリアル番号ファイルを Cisco PnP ポータルからダウンロードし、Cisco vManage にアップロードします。

## 自動同期を使用したデバイスのアップロード

デバイスを Cisco vManage にアップロードする自動同期方式は、クラウドコントローラを含む展開とオンプレミスコントローラを含む展開のどちらでも使用できますが、Cisco vManage がプラグアンドプレイ (PnP) ポータルに接続できることが条件です。

### 自動同期オプションが Cisco PnP で機能する仕組み

シスコチームが Cisco SD-WAN コントローラを設定して展開すると、注文に関連付けられた Cisco vManage 情報を含む電子メールが送信されます。このような場合にデバイスをオーバーレイネットワークに追加するには、次の手順に従います。

1. デフォルトのクレデンシャル (admin/admin) を使用して Cisco vManage にログインします。
2. Cisco PnP ポータルから Cisco vManage にデバイス情報を転送するには、Cisco vManage でスマートアカウントまたは仮想アカウントを同期します。この手順には、バーチャルアカウント管理者ロールのシスコクレデンシャルが必要です。WAN エッジルータのシリアル番号のアップロードの詳細については、[Cisco スマートアカウントからの WAN エッジルータシリアル番号のアップロード \[英語\]](#) を参照してください。



- 
- (注) PnP ポータルに新しいデバイスを追加するたびに、Cisco vManage をスマートアカウントまたは仮想アカウントと再同期して、新しいデバイスが Cisco vManage に表示されるようにする必要があります。
- 

デバイス情報が Cisco vManage に転送されたら、Cisco SD-WAN オーバーレイを設定できます。



- 
- (注) Cisco PnP ポータルと、Cisco SD-WAN のオンボーディングデバイスにおけるその役割の詳細については、次の参考ドキュメントを参照してください。
- [Cisco SD-WAN 製品向け Cisco プラグアンドプレイ サポート ガイド](#)
  - [プラグアンドプレイのオンボーディング ワークフロー](#)
-

### 自動同期オプションが ZTP で機能する仕組み

サポートされている WAN エッジデバイスが Cisco ゼロタッチプロビジョニング (ZTP) に登録されている場合、デバイスのオンボーディングは自動化され、デバイスは Cisco vBond オーケストレーターによって認証されます。

ZTP を使用する場合、デバイスを箱から出した後、その WAN ポートをネットワークに接続し、DHCP からの IP 設定が構成されていることを確認します。これには、IP アドレス、マスク、ゲートウェイ、および DNS の設定が含まれます。次にデバイスは Cisco PnP ポータルのインベントリを認識している ZTP サーバーを探します。次に ZTP サーバーはデバイスを認証し、さらなる認証のために Cisco vBond オーケストレーターにリダイレクトします。



(注) vEdge ルータをオーバーレイネットワークに自動的に参加するように設定する方法については、「[ZTP 用にルータを準備する](#)」を参照してください。

### 自動同期オプションを使用してオンボードされたデバイスの表示方法

自動同期オプションのいずれかを使用して (Cisco ZTP または Cisco PnP を介して) デバイスを Cisco vManage にアップロードすると、Quick Connect ワークフローの最後に、**[Monitor]** > **[Overview]** からアクセス可能な Cisco vManage ダッシュボードにデバイスが表示されます。

Cisco vManage リリース 20.6.x 以前：自動同期オプションのいずれかを使用して (Cisco ZTP または Cisco PnP を介して) デバイスを Cisco vManage にアップロードすると、Quick Connect ワークフローの最後に、**[Dashboard]** > **[Main Dashboard]** からアクセス可能な Cisco vManage ダッシュボードにデバイスが表示されます。

## デバイスの手動アップロード

次の場合、デバイスを Cisco vManage に手動でアップロードすることを選択できます。

- スマートアカウントを Cisco vManage と同期する必要がある自動同期オプションを使用し  
たくない
- Cisco vManage インスタンスが Cisco PnP ポータルに接続できない

### デバイスの手動アップロードの方法

デバイスを Cisco vManage に手動でアップロードするには、次の手順を実行します。

1. Cisco PnP ポータルから認定シリアル番号ファイルまたはプロビジョニングファイルをダウンロードします。このファイルは、PnP ポータルで入手できます (**[Controllers]** > **[Provisioning File]**) 。
2. 認定シリアル番号ファイルを Cisco vManage に手動でアップロードすることにより、デバイス情報を Cisco vManage に転送します。WAN Edge ルータシリアル番号の手動アップロードの詳細については、『[Upload WAN Edge Router Authorized Serial Number File](#)』を参照してください。

### デバイスを手動アップロードするときの Quick Connect の動作

手動の手法でデバイスを Cisco vManage にアップロードする場合、Quick Connect ワークフローによって生成される CLI ブートストラップ構成を使用してデバイスを展開するまで、それらは Cisco vManage ダッシュボードに表示されません。

ブートストラップ方式では、工場出荷時の WAN Edge デバイスを、安全に展開して Cisco SD-WAN ネットワークに参加させるために必要な構成でオンボードできます。



- (注) CLI ブートストラップ設定を使用して Cisco IOS XE SD-WAN デバイスを展開する完全な手順については、『[On-Site Bootstrap Process for Cisco SD-WAN Devices](#)』を参照してください。

## Quick Connect ワークフローへのアクセス

1. [Cisco vManage] メニューから、[Workflows] を選択します。
2. 新しい Quick Connect ワークフローを開始：[Library] 領域で、[Quick Connect] を選択します。

または

進行中の Quick Connect ワークフローを再開：進行中の領域で、[Quick Connect] をクリックします。



- (注) 手動アップロード方式でデバイスを Cisco vManage にアップロードする場合は、Quick Connect ワークフローが生成する CLI ブートストラップ設定を使用してデバイスを展開するという追加の手順を完了する必要があります。デバイスにロードするブートストラップ設定ファイルの生成の詳細については、[Cisco SD-WAN デバイスのオンサイトブートストラッププロセス](#)を参照してください。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。